

国際村だより

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM

dewasshonai



タヒチアンダンスで大歓声！ 第27回出羽庄内国際村ワールドバザール



国際村だより もくじ

- P 2・3：第27回出羽庄内国際村ワールドバザール
- P 4：出羽庄内国際村音楽祭 2022
ナターシャ・グジー コンサート
- P 5：日本語教室活動報告（花見、器の会、運動会）
- P 6：せかいの台所（台湾、メキシコ）、
旅する国際村オンラインツアー
（ニュージーランド、ベトナム）
- P 7：鶴岡・ニューブランズウィック友好協会、
鶴岡田川地区日中友好協会、
鶴岡・ラフォア友好協会
-
- P 8：せかいの台所レシピシリーズ～台湾料理～
あとがき・外国語講座 受講者募集

随時募集中

- ホストファミリー
- イベントボランティア
- コミュニティ通訳ボランティア
- 財団賛助会員

出羽庄内国際交流財団会報

vol. 87

令和4年8月20日発行

6月 11 (土) 12 (日)

2日間開催! 第27回 出羽庄内国際村

ワールドバザール

ご来場の皆様、関係者の皆様、ありがとうございました。



昨年に引き続き、2日間にわたっての開催となった今年のワールドバザール。1日目の《ステージ発表を中心としたバザール》と2日目の《各国料理模擬店を中心としたバザール》に分け、皆さんが安心して参加できるよう、検温やリストバンドの着用、アルコール消毒など、様々なコロナウイルス感染対策に取り組みながら実施しました。両日も天候に恵まれ、昨年よりも多くの皆さまにご来場いただきました。

このイベントは、毎年いろいろな国の料理や国際色豊かなステージ発表が楽しめるのが人気で、今年は初出場・初出店の団体もあり、来場の皆さんにはいつもと少し違ったバザールを楽しんでいただけたと思います。

人混みを避けるため、今年も入場者の人数に制限を設けました。より安心して参加いただけた一方で、コロナ前のような多くの人が行き交うバザールを熱望する声も多く聞かれました。来年も様々な状況を注視、検討し、より多くの方に喜んでいただけるバザールを実施したいと思っています。

実行委員長より

五十嵐 ゆかりさん



今年のワールドバザールも、まだ色々な制限のあったコロナ禍での開催でしたが、ご来場の皆さまからも、事前予約や感染予防の対策など、コロナ禍以前の開催には無かった多くのご協力を頂きまして、2日間とも大盛況のうちに終えることができました。

また、今年はいまだには無かった「バザール応援募金」のご協力もお願いいたしまして、皆さまのあたたかいお気持ちを頂き、心から感謝申し上げます。

このコロナ禍でも「ワールドバザール」を開催することができたのは、実行委員はじめ、ボランティアの皆さまや関係団体の皆さまの多大なるご協力はもちろんですが、年に一度の「国際村ワールドバザール」を楽しみに待っていてくれる人達がたくさんいるので、開催することができるんだと思います。

次回のワールドバザールは、コロナも終息し、もっともっとたくさんの人達に楽しんでもらえますように!

ワールドバザール参加団体 (五十音順)

エリック&しずこ、協力隊を支援するやまがた地球家族の会、金魚の会、クルンズィザ・クリスチャン、国際ソロプチミスト鶴岡、Gospel Gleamers、庄内観光コンベンション協会、庄内日独協会、庄内町国際交流協会、シンメトリーズ、せかいの台所、だがしや^{がっこ}、中国倶楽部、鶴岡青年会議所、鶴岡市教育委員会 (スポーツ課)、鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会、鶴岡田川地区日中友好協会、鶴岡・ニューブランズウィック友好協会、鶴岡ライオンズクラブ、鶴岡・ラフォア友好協会、Te・Tiare Nui フラ&タヒチアンダンススタジオ、出羽庄内国際村日本語教室、DEWANDÉS、^{ヒコ}胡迷、Noa、ハウオリフラススタジオ、羽黒高校英会話部、PPI Yamagata、路地裏芸人、s IKATAKO、ワールドコミュニケーションクラブ

6/11
(土)

多種多様なステージ 発表(1日目)

留学生による、
息の合った
アングルン演奏。



バザール1日目は、ステージ発表を中心に行いました。多種多様なステージを楽しめるワールドバザールですが、今回はダンスや歌、空手の演武、楽器の演奏、サイコロを使ったパフォーマンスなど、11団体の皆さんに出演していただきました。中でも、会場を盛り上げたのは初参加のタヒチアンダンスのステージ。羽根飾りをつけてリズムカルなダンスを披露すると、会場から大きな拍手が沸き起こりました。また、ステージ発表には留学生などの外国出身者も多く出演し、インドネシアの楽器「アングルン」を演奏したり、ベナンの歌を披露したりなど、自国の文化の発表や地域の人達との交流を楽しんでいました。

出演者の皆さんからは、まだまだイベント発表の機会が少ない中、このような場が設けられて嬉しいとの感想が寄せられました。来年も皆さんと一緒に楽しみましょう！



◀スタッキングダイスのステージ。サイコロが高く積み上がると、大歓声！

6/12
(日)

食べ比べてみる 世界の料理(2日目)

バザール2日目は、世界の料理模擬店を中心に行いました。外国出身の皆さんが自国の料理を味わってもらおうと、毎年頑張って出店しています。

今年は、昨年に引き続き参加の中国、韓国、インドネシア、シリア、ベトナム、ベナン、日本の料理に加え、新しくフィリピン、メキシコ、ケニア、タイの11カ国の料理が並びました。去年より参加したグループが増えて賑やかになり、珍しい料理を買い求めるお客様で行列ができていました。地元に住んでいる外国出身の皆さんもたくさん遊びに来て、普段食べられない色々な国の料理を味わって楽しんでいました。今年はボランティアが多く参加し、外国出身の方々とお互いに協力しながら、調理から販売まで手伝ってくれました。

来年はどんな料理が出るか、今から待ち遠しいです。



◀インドネシア料理ブースのボランティアの皆さん。

韓国料理ブースでビビンバ等買い求めるお客様。



館内・屋外では

館内では、各団体の展示、バザー、フリーマーケットなど様々なブースが設けられました。パラリンピック競技のポッチャ体験や子ども向け釣り体験コーナーもあり、家族で楽しんでいる様子が見られました。

「協力隊を支援するやまがた地球家族の会」は、JICAや青年海外協力隊、SDGsについて紹介するブースで、3年ぶりのワールドバザール参加となりました。担当の

方は、「集客力を感じたし、在住外国人の皆さんと触れ合う良い機会になる。入場者制限が解ければ、賑わいも増えもっと良くなりますね」と話していました。

「鶴岡・タイ『子どもの村学園』友好協会」、「庄内日独協会」の2団体は、今回ワールドバザールに初参加。タイのブースでは、湿地に自生する草で編まれたボトルホルダーがすぐに完売になるほどの大人気でした。

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。



7/23
(土)

出羽庄内国際村音楽祭 2022
「希望の大地」チャリティーツアー



ウクライナの歌姫 ナターシャ・グジー
コンサート



ウクライナの民族楽器「バンドウーラ」▶



世界の様々な地域や国の民族音楽を通して国際理解や交流を深めることを目的に、毎年「出羽庄内国際村音楽祭」を実行委員会で開催しています。今年は7月23日(土)に、ウクライナ出身の演奏家、ナターシャ・グジーさんをお迎えし、『「希望の大地」チャリティーツアー ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーコンサート』を開催しました。ナターシャ・グジーさんには、2013年の国際村音楽祭でも公演いただいております。今回は2回目の演奏会となりました。

このコンサートは長期にわたるウクライナ支援を目的に、音楽を通してウクライナに多くの方に広く関心を寄せてもらおうと全国ツアーとして企画されたもの。7月から4カ月間、東北から九州まで縦断する全国ツアーの山形会場として、出羽庄内国際村での公演が実現しました。招致を決定してから演奏会当日まで、わずか1カ月程という異例のスピード開催でしたが、実行委員の皆さんが28回を迎える音楽祭の長年の経験を活かし、それぞれの担当の準備を滞りなく進めることで、万全の体制で開催することができました。

ナターシャさんが演奏するのは「バンドウーラ」という、ウクライナの民族楽器。日本の琵琶のような形ですが、弦は60本以上あり、音色はチェンバロに似ています。哀愁を帯びた音色とナターシャさんの透き通った歌声が会場に響きわたり、満席に近い約250名の聴衆を魅了しました。

ウクライナ民謡を基に作られたオリジナル曲や、日本人にも馴染みの深いアニメの主題歌などが演奏されました。公演の中でナターシャさんは、自身が6歳のころに被ばくしたチェルノブイリ原発事故にも触れ、35年以上前のこの事故が今でも世代を越えて人々に影響を与えていることが紹介されました。また、今まさ

に進行している戦争についても、これから長い時間をかけ悲劇を乗り越えて行かなければならない、少しでも長く支援していただきたい、と想いを語っていました。

「希望の大地」と題された今回のコンサート。実行委員会では、コンサート収益の一部を日本赤十字社を通して寄付いたします。民族音楽を通して、様々な文化や価値観に触れることのできる出羽庄内国際村音楽祭。今年は、一層心に沁みる演奏会となりました。全ての人が、穏やかな気持ちで音楽を楽しむことができる世界になることを願います。

実行委員長より

石黒 亘さん



今回の音楽祭にナターシャ・グジーさんをお呼びすることとなった背景には、先の、そして今なお続くウクライナ侵攻に端を発する部分があります。直視するには大変に勇気の要る、しかし目を背けてばかりいられない現実。非常にデリケートなテーマをはらむ今回の音楽祭でしたが、ステージに立たれたナターシャさんは直接的な表現や言及は避け、あくまで純粋に美しい音楽を届けてくださいました。

水晶のように澄んだ歌声はバンドウーラの切ない音色に包まれ、言葉や情景が聴く人の心に染み渡りようでした。曲と曲の間にはまるで一人一人に語りかけるようなゆったりとした口調で、時に冗談で会場を沸かせ、時にご自身の体験を語り部さながらに、音楽だけでなくお話でも聴く人の心を掴む、そんなパフォーマンスでした。極上の癒しの中に確かな平和への祈りが込められた、そんなコンサートとなりました。

出羽庄内国際村 日本語教室 課外活動

4/17
SUN **桜の下で、お花見をしました**



春のお楽しみの「お花見」。例年は鶴岡市の桜の名所である鶴岡公園に集合し、皆で食べ物を持ち寄って楽しんでいたお花見ですが、今年は感染予防の為に人混みを避け、場所を国際村近くの公園に移しての開催となりました。だんごとお茶を準備し、短時間でしたが、学習者と指導ボランティアの皆さんで久々に楽しい時間を過ごしました。

花見当日は天気も良く、桜がきれいに咲いていて、桜の下で食べる草よもぎだんごがとてもおいしく感じられました。初めてだんごに挑戦する学習者も何人かいましたが、「おいしい!」と、あっという間に2本のだんごを食べていました。

その後は、日本語の会話の勉強を兼ねた質問タイム。花見の時でも、学習者の皆さんはとても熱心に話をしたり聞いたりしていました。



6/18
SAT **日本の家庭料理を学ぼう「器の会」**



今年1回目の「器の会」が6月18日に行われました。この会では、春と秋の年2回、日本の家庭の味を日本語で学んでいます。モンゴル、

ケニア、インドネシア出身の9名が参加しました。

今回は「いなり寿司」、「ほうれん草の胡麻和え」、「肉団子スープ」、「抹茶のフォンダンショコラ」の4品を先生に教えていただきました。いなり寿司は、油揚げで皮を作るところから挑戦。油揚げが破れないよう、すし飯を詰める作業に皆さん苦戦していました。フォンダンショコラは、電子レンジで簡単にできる作り方を教えていただきました。できあがった料理はどれもおいしく、参加者の皆さんにとっても好評でした。

会食の時には、自己紹介などの会話を通して参加者同士の交流も深めることができました。



5/29
SUN **4年ぶりの田川地区大運動会に参加!**



国際村の日本語教室の皆さんが、4年ぶりの開催となる田川地区大運動会に参加させていただきました。雲一つない晴天の中、日本語教室の学習者やその家族、サポーターの日本語指導ボランティアなど総勢約30名が参加。借り物競争やボール送り競争、玉入れ、綱引き、リレーなど全11種目のうち7競技に出場。新種目のグランドゴルフリレーでは、インドネシアからの留学生3人チームが第1位という好成績を収めました。

参加者は、インドネシア、モンゴル、シンガポール、ベトナム、フィリピン、ケニア、ザンビア、ベナン、ギニア、ルワンダと出身国も様々で、まさに世界大会。ほとんどが日本の運動会に参加するのは初めての経験で、本格的な練習はできなかったものの、お互いに声援を送りながら、皆が楽しそうにしている姿がとても印象的でした。

フィリピン出身のリンディ・オルティズさんは、地元チームのリレー走者として協力し、地域の皆さんとの交流も深めました。

総合結果は10チーム中8位でしたが、次回は上位を目指して頑張ります!



国際村の料理教室

せかいの台所

4/24
SUN

台湾料理 ~雅萍さんの台所~



年6回、偶数月に行っているせかいの台所。今年度第1回目は、台湾出身の王雅萍さんに「鳳梨炒黒木耳（パイナップルときくらげの炒め物）」、「蒜蓉金沙杏鮑菇（塩卵とエリンギのニンニク炒め）」、「蘿蔔排骨湯（大根とスペアリブのスープ）」、「黒糖薑汁芋圓（黒糖生姜風味の芋団子）」の4品を教

えていただきました。

料理の味つけには、台湾料理によく使われるとろみ醤油を使い、甘みが特徴の醤油が料理の味を引き締めてくれました。

雅萍さんには、今回の料理のアレンジレシピも教えていただき、有意義な時間となりました。



5/28
SAT

メキシコ料理 ~エリックさんの台所~



5月に行った第2回目では、カナダ出身のエリック・カラスさんにタキトス デポヨ（巻いて食べるチキンタコス）、アロス メヒカーノ（メキシコ風トマトの炊き込みご飯）、エンサラダ デノパレス（サボテンのサラダ）、アグア デオルチャタ（お米のデザートドリンク）の4品を教

えていただきました。

エンサラダ デノパレスは、メキシコでよく食べられている食用サボテンを使ったサラダで、日本ではあまり馴染みのないサボテンに皆さん興味津々でした。両親がメキシコ出身で、メキシコ料理が得意なエリックさん。会食時には、メキシコとカナダ、両方の文化についてのお話を聞きながら、作った料理を頂きました。



ホームページより、《せかいの台所レシピ集》をご活用ください。

今回のメキシコ料理と台湾料理（P8に一部掲載）のレシピはもちろん、今まで実施してきた各国の料理のレシピを紹介しています。



令和4年度 世界の今をしてみよう!

旅する国際村オンラインツアー

海外在住の国際村の友人などを訪ねて、海外の普段の生活や文化を紹介いただく大好評オンラインツアー!

第1回 NZ・オークランド編



富樫 史生 さん

4月16日に行われた今年度第1回目のオンラインツアーは、ニュージーランド・オークランド編。鶴岡市出身で現地在住の富樫史生さんにナビゲーターをお願いしました。

オークランドの紹介や、富樫さんがオークランドで主宰している日本文化と日本語・英語・中国語の交流グループの活動についてなど、画像を使いながら詳しく説明していただきました。

後半の街歩き配信では、イースターで休業の店が多かったですが、近くのエールハウスやカフェにも入り、店内の様子を見せていただきました。道行く人やお店の人も、皆気さくに声をかけあっていて、参加者の皆さんは現地の人々のフレンドリーさに驚いていました。街を歩きながら、富樫さんが国際交流に興味を持ったきっかけや、多文化共生が進む中での国際村のような施設の重要な役割についてもご紹介いただきました。



会う人、皆がとてもフレンドリー!



エールハウスの店内

第2回 ベトナム・ダナン編



ムエン・シ・トアン さん

5月15日に行われた第2回目のオンラインツアーは、ベトナム・ダナン編。

今回のナビゲーターは、ダナン大学にお勤めのムエン・シ・トアンさん。2018年まで山形大学に留学をしていて、日本語教室や国際村のイベントによく参加していました。ツアー参加者から「懐かしい!」という声が多く聞かれました。

リゾート地ダナンの概要やオススメの観光スポットの紹介から始まり、大好評のハウスツアーでは素敵な奥様とカワイイ赤ちゃんも登場。洗濯した子供服などが窓一面に干されていました。



窓一面に干されている子供服

外に出てご友人が運転するバイクの後ろに座り、国際村初のバイクツアーがスタート。金色の龍をモチーフにデザインされた「ドラゴンブリッジ」を渡る場面は圧巻でした。

トアンさんの人柄の良さが感じられ、温かい気持ちになるツアーでした。



ドラゴンブリッジ

鶴岡・ニューブランズウィック 友好協会 自治体国際交流表彰(総務大臣賞)受賞!

鶴岡市とニューブランズウィック市は、1960年に姉妹都市盟約を締結。60周年を記念し、訪問団の派遣や中学生相互交流事業など様々な行事が予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響でやむなく中止となり、新たな交流事業『One Heart Project』が実施されました。手作りマスクや千羽鶴の寄贈、約百人の鶴岡市民が登場する応援メッセージ動画の制作等、市民レベルでの取り組みが評価され、「第15回自治体国際交流表彰(総務大臣賞)」を山形県で初受賞。今年度は、ニューブランズウィック市からの訪問団受け入れ準備を進める方針を7月15日の総会で確認しました。

佐藤公力会長は、「60年に渡る交流の歴史を100年につなげていきたい」と語っていました。

応援メッセージ
動画QRコード→



寄贈した手作りマスクと千羽鶴 応援メッセージ動画の1コマ

鶴岡田川地区 日中友好協会

鶴岡田川地区日中友好協会は、日本と中国の友好を深めていこうと昭和57年(1982年)に設立され、現在は会員66名です。

これまで中国を訪問したり、太原日語晨会「日本語教室」の開設を支援したり、ほかにも中国人留学生との交流などを通じて友好の架け橋としての役割を担ってきました。

特に、協会設立の2年前にスタートした中国語講座は、老若男女、多くの方に大変好評で、開講43年目を迎えています。協会としても実施のための費用を補助するなどして積極的に開催を促進しています。

今年でちょうど協会設立40年の節目を迎え、来年秋頃には記念行事を行う予定です。



ワールドバザールで
協会40年のあゆみを紹介



鶴岡・ラフォア友好協会



鶴岡・ラフォア友好協会 設立30周年!

鶴岡・ラフォア友好協会は、南太平洋の島国ニューカレドニアの南部に位置するラフォア市との友好関係促進を目的として1992年に設立されました。中学生の相互訪問や民間交流などの活動に努めています。

6月24日に、3年ぶりとなる総会が国際村ホールで行われ、令和3年度の事業報告と設立30周年を迎える令和4年度の事業計画について協議されました。

総会后には、山形新聞社 鶴岡支社長の古頭哲さんより、1996年に親善訪問団とラフォアへ同行取材した際のお話を聞かせていただきました。現地はサイクロンによる災害復旧が済んでいないにも関わらず、訪問団を温かく歓迎してくれたことが伝わってきました。

新型コロナウイルスの影響で令和3年度も相互交流が中止となり、交流活動ができませんでしたが、ラフォア市のニコラ・メスドフ市長をはじめ友好協会会員など11名の方にグリーティングカードを送付しました。また2021年7月にはラフォア市からは木製の「アド

レス帳」と「オウムガイのろうそく立て」が届き、両市の交流を続けようという思いが感じられました。

設立30周年記念事業については来年度の実施を予定しています。



◀ 2019年中学生親善訪問団派遣



◀ 古頭さんのスピーチの様子



各友好協会では随時会員を募集しています。興味のある方は、国際村事務室までお申し込みください。

せかいの台所

レシピシリーズ



台湾料理

講師 **王 雅萍**さん
ワン ヤピン
ピンドン
 (台湾 屏東 出身)



4月24日に開催した「せかいの台所～台湾料理～」より
ファンリーチャオヘイモア
 鳳梨炒黒木耳 (パイナップルと黒きくらげの炒め物) を
 紹介します。



パイナップルと黒きくらげの炒め物 【材料 4 人分】

- パイナップル … 1/3 個
- 干しきくらげ … 20 g
- 千切り生姜 … 25 g
- サラダ油 … 大さじ 1.5
- 砂糖 … 大さじ 1.5
- 酢 … 大さじ 2
- とろみ醤油 … 大さじ 1.5
- 唐辛子 … 適量

作り方

①干しきくらげを水で戻し、一口大に切る。



③フライパンに油を入れ、千切りにした生姜を弱火で香りがたつまで炒める。



②パイナップルの皮を剥いて、0.5cmの厚さに切る。



④きくらげを入れ、軽く炒めたらパイナップルを加える。



パイナップルから汁が出たら、砂糖、酢、とろみ醤油で味付けする。

※お好みで唐辛子を加えてピリ辛の風味も楽しめる。

あ と が き

63弦の民族楽器バンドウラを弾き語るナターシャ・グジー全国ツアーが鶴岡で開催された。アンコール前の最後の曲は「希望の大地」。自らが作詞作曲、2014年に起きた内戦の悲劇をのり越えられるという思いで作ったのだという。歌詞が日本語であり、聴き入ると情景が浮かび上がる。「夕日が沈む遙かな丘は、いまでも変わらぬ一面のひまわり」と、透明感のある声にのせ本国への応援歌として響かせる。まさか、すでに5カ月を超える新たな悲劇が起こるとは思っていなかっただろうが、気丈にふるまい、復興は時間がかかる、自分の取り組みは小さいが、長く続けることが大事と、曲後も熱く語り、日本の唱歌である故郷(ふるさと)をアンコールに選んだ。「山は青き故郷 水は清き故郷」。聴衆の心に、けて壊してならない大切な存在が浮かんではいたのか。

外国語講座 第2期(9月~12月) 受講者募集!



国際村では、秋の外国語講座(第2期)の受講生を募集しています。英語、中国語、韓国語、スペイン語をネイティブの先生方と一緒に学びましょう!

各コースの詳しい日程・金額、申込書などは国際村ホームページ

URL <https://dewakoku.or.jp> でダウンロードできます。

1回見学無料(※フリートーク型講座を除く) まずはお問合せを。